

金子耕式の **その5** ファミリー・トーク

北海道と沖縄県にて放送中!!



読み聞かせが学力の基礎に

小学校に上がる前の子どもたちは、年齢に応じた絵本や童話などを日々読み聞かせてあげてください。

私の妻は本が大好きで、子どもが言葉を話し始める前から、絵本を見せながら読み聞かせをしていました。言葉が理解できないのに本を読んであげても無意味だろう、と思われませんか。そんなことは、ありません。赤ちゃんがどうやって言葉を覚えるかと言えば、毎日、お母さんやお父さんが語りかける言葉を聞きながら、徐々に言語の概念を形成していくのです。しかも、読み聞かせをしてもらうことで、子どもたちは本が大好きになります。また、就学前の子どもでも、文字を指でなぞりながら読んであげると、次第に文字にも興味を持つようになります。

小学校低学年で勉強につまずいてしまう子どもたちは、たいてい本を読むのが苦手です。学校での勉強はまず、教科書をすらすら読めるかどうかで理解力が大きく左右されてしまうからです。問題を解くにも、読解力が鍵になるのです。

ですから、お子さんがまだ小さいうちから、食事の後や寝る前などに時間をとって読み聞かせをしてあげてください。お子さんがすでに小学生で、もし勉強につまずいているなら、教科書の音読をさせてください。そして、読めない時はそのつど教えてあげてください。ただし、上手に読めなくても決して叱らないでください。むしろ、少し読み進むことに、大げさなくらい褒めてあげてください。



読み聞かせで情緒を養う

幼い子どもたちに絵本を読み聞かせてあげるとは、子どもたちに想像力や人への思いやりを育てるためにとっても役立ちます。

前半で、本の読み聞かせが学校へ上がったからの勉強にとって、大きな支えになることをお話ししました。読み聞かせは、それだけでなく他にも多くの益をもたらします。

子どもたちは、物語の筋や人物をおして善悪について教えられ、感受性を高められ、また人の気持ちを想像して思いやる心を育てられます。

私の長男は、小さい頃「醜いアヒルの子」が大好きで、何度も読み聞かせをさせられましたが、その度に同じところまで読み進むと、「かわいそうだ、かわいそうだ」と言って涙を流しました。そして「もし、自分がアヒルだったら絶対友だちになつてあげる」と言いました。

今の時代の子どもたちには、そういう経験がとても大切だと思います。子どもを膝の上のせてスキンシップを持ちながら、一緒に物語に共感したり、子どもたちの話し相手になったりしながら、健全な価値観を養って行くことが是非とも必要なのです。

子どもたちにテレビやゲームを与えておけば、放っておいても一日じゅう夢中になって過ごすでしょう。でも、皆さんはそのゲームの中身をこ存知でしょうか。大抵は、武器や暴力で敵を倒すものです。そういうものから、思いやりや善悪の判断力が生まれてくるはずはありません。

